

令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

金沢市立戸板小学校	小学校教科推進校	社会科・生活科
-----------	----------	---------

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 見方・考え方を働かせる単元構成の工夫

児童が学習問題を見出し、見通しをもって協働的に追究し、振り返ってまとめたり新たな問いを見出したりする姿を生むために、育成する資質・能力や重視する見方・考え方を具現化し、学びのつながりの創出を図る単元構成の工夫をする。

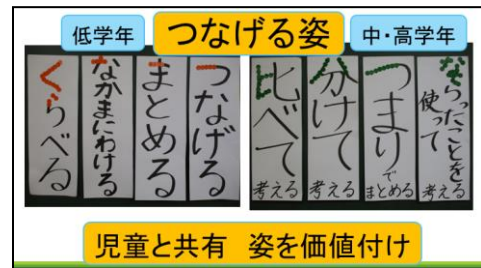
- ・単元で育成する資質・能力を明確にし、目標－評価規準－指導の整合性を図る。
- ・社会的事象の見方・考え方を、単元前半では主に見方（視点）を児童が働かせ、単元後半では主に考え方（方法）を児童が働かせるよう、意図的に単元デザインする。



(2) 重点2 本時における つなげる姿を生む手立て

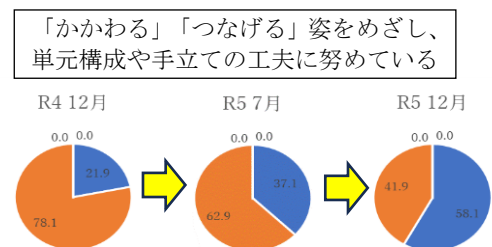
資料提示、発問、板書、教師の価値付けなど教師の手立てを講じることで、児童自らつなげる姿を生み出し、達成感に基づいた主体的に学ぶ力の涵養を目指す。

- ・つなげる姿を、社会的事象の考え方「比較」「分類」「総合」「関連付け」の4つに焦点化して、児童と共有しながら意識化し、繰り返し授業で児童自ら働かせられるよう、価値付け、児童の力としてきた。
- ・考えたくなる資料提示や発問、構造的な板書、実感を伴う場の設定などのさまざまな手立ての工夫により、児童のつなげる姿を生み出すことができた。
- ・まとめ前のキーワードを板書に位置付け、ねらいに到達したかの見取りを行った。



2 取組の検証

学校評価の教員アンケートでは、「『かかわる』『つなげる』姿をめざし、単元構成や手立ての工夫に努めている」に対するA評価の割合が昨年度12月21.9%から今年度7月37.1%、12月58.1%と、取組を重ねるごとに上昇した。昨年度12月と比較して今年度12月は36.2ポイント上昇した。全ての教員が意識し取り組んだ。



3 成果と課題

- 見方・考え方を意図的に位置付けた単元構成により、資質・能力の育成を図った。
- 問題解決的な学習の充実により、児童自ら動き出すための学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿、児童自らつなげる姿が増えた。
- ・単元のゴールに向かって、児童自ら進めていく学びをさらに支援する。
- ・児童の思考に沿ったつなげる手立て（資料提示の方法、深めの発問、ICTの効果的な活用）などを、より一層充実させる。